100円からのCD批評 Pops VOL.8

マークポイント	＜評価＞
●	安くても買って損した
●●	どうでも良い
●●●	まあ、いいんじゃな～い
●●●●	かなり満足できた
●●●●●	非常に満足、してやったり！

＜41＞ロック

・Rolling Stones [THE BEST OF ROLLING STONES 71-93] 280円 （Virgin輸入盤／1993） 柏にて

ビートルズ＆ストーンズは、我が少年時代の最大のポップス＆ロックアイドルで、へそ曲がりで青臭い小生は皆がいつも素晴らしい評価をするビートルズよりも、イカレタ不良グループのストーンズの方を御贔屓にしていた。スタンダード音楽となって世界の誰からも世代を超えた支持を受け続けるビートルズに対して、与太ものの集まりっぽくロックンロールさえ演奏していたら誰にも負けないという『凄み』がストーンズにはいつも感じられる。先日も日本公演（2003年春）を前にした彼等のインタビューを見たが、60歳近い連中が集まってにも関わらず恐ろしい程のパワーがみなぎっていて、かつ顔や格好はまざまざと永年の薬やアルコール、女とタバコの虜となって、快楽とその後の虚脱感を懲りずに経験して来た凄い形相の男たちの姿が見られた。さながら生きるロック魂の見本として走り続けるヤンチャさが最大の武器であり、魅力のグループ・世界最高のロックバンドである事実はいつまでも刻み続けられ、80歳になっても古典芸能にならない音楽を送りだし続けるだろう！『万歳ストーンズ！！！』といったアルバム以外何者でもないCD（アルバムレビューよりも賛歌になってしまいます）。 評価／●●●●● （購入日）2002.11.15

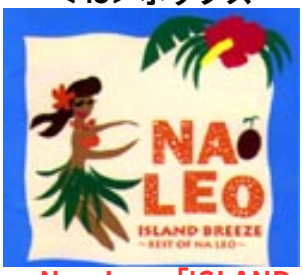
＜42＞インストポップス

秋葉原の電気街を歩くとき、ガード下の何でも電気屋の店頭によく並んでいて、始終流されていたＣＤ。どうにも気になって仕方がなかったのが、中古ＣＤ屋に出ていて購入の巻。それというのも秋葉でふと聴いていた曲想がすごくキャッチーで、フラメンコギターのポップスインストだったのとサンタナの曲をやっているのが気に入った部分。　歌のない歌謡曲というコンセプトみたいなのは、意外と好きみたいなのねオイラ。それなりに哀愁のあるメロディであり（オリジナルのセンスはそれなりに説得力がある）、冒険的な部分や挑発的なフレーズは全くなくあくまでもスッキリ爽やかなギターインスト

・Sergi Vicente [LUNA LLENA] 480円（OPEN/スペイン輸入盤 1998）　柏にて

というのも悪くない。　ただし、「My Way」やらＳ・ワンダーのヒット曲「I Just Call～」などまでやられてしまうとせっかくのエキゾチズムがかけらも無くなるので、控えてくれた方がこっちのテイストに合致する。　まあ、別に力んで買う程のＣＤじゃないのは判ってるが、たまに引っぱり出す可能性はあるジャンルの音楽。 評価／●●　（購入日）2003.5

＜43＞ポップス



・Na　Leo 「ISLAND BREEZE/ベスト・オブ・ナレオ」 180円 {EPIC/1993年発売日本盤}　秋葉原にて

時節柄少しトロピカルムードで過ごしたいと思ったら、秋葉を歩いて遭遇～バッタ販売されていて値段の点から購入。ハワイアンサウンドのグループである事だけが予備知識、FM放送で彼女らのヒット曲（とは言ってもローカルヒット）がオンエアされていた程度であまりたいした期待はしなかった。でもって、中味は・・といえば別にどうって事のないハワイ風ポップミュージック。途中、初期のベッド・ミドラー風アレンジもあれば、カリプソやレゲエの曲もあるけど、どれも素直な奥様コーラスのチト上手い世界から出てない。この感覚じゃなくて、もっとハワイアンのテイストを濃くした方が正解だと思うな、私には・・・。　結局、爽やかといえばそうだが、ちいとも面白みの無い女性コーラスであって、日本の一部とハワイ向きのローカル音楽でしょうね、こりゃ！現地の言葉で歌ってればもっと面白いし、それなりの風味も増すのに全篇英語じゃ残念ながら興ざめのベストアルバムです。　満足度／●●　（購入日：2002.8）

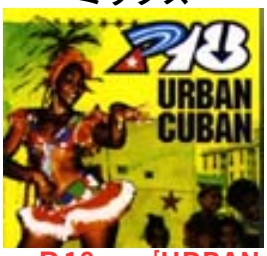
＜44＞ロック？

・Ottmar Libert & Luna Negra [SOLO PARA TI] 480円　{EPIC/1991年発売　輸入盤}　柏にて

参加ミュージシャンのクレジットにサンタナさんが入っていてず～と前から気になったので、購入してみたもの。結論＝最大級のスカ！！！ フラメンコやらラテンフレーバーも安っぽく、妙な３流酒場のギターバンドか、韓国あたりのカラオケテープみたいな演奏がアルバム全体を覆っています。 NO.42のフラメンコ・ギターをポップス＆ロック系にまとめた分野の音楽と同じであるが、センスといい、音としてのまとめ方が｛光る｝ところがないのである。リズム感のもたつきは致命的であり、先のＳ・ビセンテの方がず～っと旨くまとめるセンスがあり、歌心もある。大体、バックのパーカションはオレも出来そうなセンスとテクしか聴こえてこないのが哀しく辛いのです。但し、数曲にサンタナのギターが聴ける事が私には、救い（と思うしかない超ォウ～駄作）。　選曲には、サンタナナンバーと言うわけ（Ｓ・ビセンテもそうだったが、このＣＤにも「君に捧げるサンバ」が収録されている）で、こんなジャンルに騙される自分は、まだ修行が足りないのですっ・・・！しかし、そうしてみるとパコ・デ・ルシアのセンスと技巧は指すが天才的であったのだと今更ながらに感心してみても、遅い？？？？ 何といったてこんな凡庸ギタリストと比べちゃ失礼。久しぶりにあてが大幅に外れた１枚。

満足度／●　（購入日：2003.5）

＜45＞クラブ＆ラテンミックス



・P18　[URBAN CUBAN] 200円　{SOUND CIRCUS/1999年発売国内盤}　柏にて

ジャケットとタイトルからラテンかなと最初思ったが、どうやら今はやりのクラブでかかるドラムン何とか、ＤＪ云々のサウンドである。そのジャンルでは有名だそうなマノ・ネグラの元メンバーがキューバのミュージシャンとのコラボレーションをしてラテン風味を加えて彼らにしてみればワールドミュージックを意識しているが、やはりコチトラにはクラブミュージック。パリあたりの頭デッカチのエキゾチック・コンプレックスが透けて見える。　キューバの実力者；オルケスタ・アラゴンやシェラ・マエストロの参加がこちらには嬉しいが、その素敵なテイストが奇妙なＤＪミックスでかすんでいるのが、非常に残念！白人が有色人種の力強いサウンドに憧れてミックスしたいのは判るが、日本人のミックス感覚の方が実力は上の様に思えてしまう。　パリあたりのワールドミュージックのセンスはまあ良いのだろうが、フランス語の語りが入ったりでどこかエエかっこしいのフランス人気質はオイラ大嫌いである！！ 満足度／●●　　（購入日：2003.6.8）